

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 4月えんだより

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

年主題聖句 「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。」

(エフェソの信徒への手紙 2章 17節)

桜の花が咲き、暖かな春を迎えました。新入園の皆さま、ご入園おめでとうございます。

また、一つ大きくなった在園児の皆さん、ご進級おめでとうございます。新たな年度も神様の導きの中で守られて、心満たされる日々となりますようにお祈りいたします。新しい環境で過ごすことに少し不安がある方もおられることと思います。子ども達も、新たな変化に緊張と期待の中で歩み出す時期です。子ども達と保護者の皆さんと保育者と対話を通して、子ども達の育ちを共に育てていきましょう。

さて、3年もの間、見えない感染症と共に過ごしてきた日々も、徐々にではありますが、緩和されつつあります。私達が、経験したことが無かった災禍であるがゆえに、これまでの対策や対応を振り返り、本当に子ども達にとって正しかったのか？又、子ども達の育ちは守られたのか？等、様々な観点から検証しなければならないと思います。世界人権宣言に裏打ちされた自由や平等、仲間との関係を築くことができなかつた子ども達は、いかなる時も守られる立場であり、愛される存在であることを、今一度確認し、幼い子ども達の側から見直すことが、私達大人の責務であろうと自省を込めて記します。

神戸市内の子ども達が、虐待を受けた件数は2021年度で2934件です。2011年度の661件と比べますと10年間で報告があった件数だけでも4倍以上増加しています。これは虐待というものの認知が拡大しただけではなく、通報する義務や虐待の解釈（面前DV等）の拡がりもありますが、その全体の約40%が就学前の児童であり、小学生までを含めると約70%を超えることは看過できない状況であるといえます。コロナ禍との関連は実証されていませんが、事実を受け止めていかなければ、益々子ども達の、本来与えられるべき世界に光が当たらなくなるのではないかと危惧しています。

子ども達は、神様の一番近くにいる存在と聖書には記されています。子どもが、社会の中で虐げられていた過去の時代の中でも、イエスは「神の国は、子どものように全てを受け容れる（純真無垢な）もの」と言われ、いつ、いかなる時も「子どもたちを私のところに来させなさい」と最優先されたのです。子ども達の世界は、子ども達のものであり、それをしっかりと守り育てる歩みをこれからも実践していきたいと願います。

4月聖句：「子どもたちをわたしのところに来させなさい。」

<マルコによる福音書 10章 14節>

4月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	おはよう	であう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *自分が受け入れられていると感じ、安心する *新しく出会った人やモノに親しみを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> *保育者の姿や祈りを通して神様と出会う *友だちや保育者に親しみをもつ *好きなあそびを見つけ安心して過ごす
讃美歌	ひとりひとりのなをよんで 幼児讃美歌 1120	ひとりひとりのなをよんで 幼児讃美歌 1120